

社会教育課事業一覧表（社会教育係）

No	事業名	検討結果	理由等	社会教育課の検討内容等 平成26年度末回答	平成27年度末の状況
2	パソコン講習会	廃止	社会教育課主催の講習会は、参加者が極めて少ない。費用対効果が低いほか、開講当初の役割を十分に果たしたと考えられる。	社会教育課主催講座は、楽習センターの講座に統合する。楽習センターでは、27年度から初心者用講座を新設する。	初めてワード(文書作成)やエクセル(表計算)を学ぶ方のための「基礎講座」を楽習センターで実施した。(前、後期で2回実施)
3	市民学級(中央市民学級含む)	一部見直し	市民学級の高齢化が進んでいるので、高齢者(65歳以上)は高齢者学級に自動的に移籍するように検討する。	自発的な意欲に基づいた学習や仲間づくりを通して、地域づくりを推進する市民学級と、老年期にふさわしい社会能力を養い、生活に生きがいを見い出したり、時事問題の学習をしたりする高齢者学級とは、開設趣旨が異なる。したがって年齢に関わらず、その選択は学級生の個々の意思にまかせることが、妥当と思われる。	左記の回答を根拠に、市民学級の対象年齢を制限することは現在していない。
4	高齢者学級(中央高齢者学級含む)	一部見直し	高齢者学級は地区の老人クラブ(いきいきクラブ)の参加者と同じであるならば、老人クラブとして活動に含めることを検討する。	活動趣旨が異なるため、登録メンバーが重複しているか否かに関わらず、老人クラブに統合することは適切でない。高齢者学級は社会教育の場であるので、本来あるべき姿に戻すよう努めていく。	参加者を募集し高齢者学級を開設して実施しており、各施設で老人クラブ(いきいきクラブ)との活動の差別化に取り組んでいる。
5	しまだ楽習センター講座	一部見直し	楽習センターでの開講講座のうち、スポーツ関連のものが多くを占めているので、スポーツ振興課またはローズアリーナ指定管理者にまかせればよい。	楽習センターのスポーツ系講座は、健康増進の場、仲間づくりの場、学習のきっかけづくりの場として開講している。他主催講座と内容が重複しているものについては、初級者を対象にした講座を検討していく。	男性や若年層の参加が少ない現状を改善するためのひとつとして、楽習センターでは「新聞の読み方・楽しみ方講座」を27年度開催した。多様な市民への学習機会の提供に配慮しながらも、一定割合、趣味の講座から歴史・文化など地域を理解する講座や健康増進など身近なテーマで生きがいを増進させる講座へシフトしていくことで、公共性をもって、民間等との差別化を図っていく。
6	東海道金谷宿大学	一部見直し	受講者の固定化は、学位制・単位制が機能していないことが一因と考えられる。廃止も含めて検討が必要である。また役員会、教授会、学生代表者を議論する場に変えていき、組織の活性化を図る。	学位制及び単位制の廃止について、学生(受講生)を対象にしたアンケート調査を行った結果、概ね賛成であった。この結果を踏まえ、役員会・教授会・学生代表者会、そして理事会においてそれぞれ協議したところ、平成28年度から学位制及び単位制を廃止することにした。また、理事会をはじめそれぞれの会の運営においては、課題解決に向けて意見交換の場となるように努め、組織の活性化を図っていく。	学位制及び単位制については、27年度末をもって廃止した。また、新規の教授や学生の獲得、新規講座の開講、教授の高齢化における後継者育成といった課題を改善するため、次の項目について改善し、運営の充実を図っている。①講座開催場所を市全域の社会教育施設に広げる。②受講申し込み方法の変更(新規・継続ともに全て受講者登録していたものを、継続者については自動登録とし、登録事務を大幅に省力化するとともに、新たに電子申請を加え利便性を高める)③開講時期を4月に早め年間最大24回の受講を可能とする。④運営費の徴収を実施するなど運営の充実を図った。
7	フェスタしまだ	一部見直し	フェスタしまだとマナビイまつりを同一日程で開催されれば、相乗効果が得られると思われるので、検討する。	ステージ発表の参加団体数の調整や作品の展示スペースの確保、さらには楽習センターとの調整項目も多いが、両イベントを統合する方向で考えていきたい。調整項目が多岐にわたるので、27年度を調整期間に充て、28年度から実施したい。	平成28年度から同時開催すべく、準備を進めている。

社会教育課事業一覧表（青少年係）

No	区分	事業名	検討結果	理由等	社会教育課の検討内容等	平成27年度末の状況
5	家庭教育講座	乳幼児を持つ親の講座（いきいき子育て勉強会）	廃止	リフレッシュ色が強い講座であり、子育て支援センターの事業と重複する部分が多いため、事業全般の見直しが必要である。	乳幼児をもつ親に対する事業は充実してきている一方で、小学生を持つ親の学びの場が少ないことから、新たに「小学生をもつ親の講座」を来年度から実施する。	平成27年から「小学生をもつ親の講座」を開催。さらに中学生の親の学びの場も少ないことから、「小学生・中学生をもつ親の講座」として平成28年度より実施予定。
6	家庭教育講座	私立幼稚園家庭教育講座	一部見直し	幼稚園からの申請がない理由について確認し、見直す方向で進める。	来年度の意向を確認する中で、申請を希望しない園についてはその理由等を確認した上で、実施方法等の見直しを含め、必要な方策を検討していく。	平成27年度については、島田学園附属幼稚園と島田北幼稚園で2講座、みどり認定子ども園で1講座を実施している。
12	青少年リーダー養成	「はばたけリーダー2014！」	一部見直し	青年団などの地域に根付いた青少年リーダーとなるよう研修の場を広げるとともに、受講終了後、青年ボランティア講座へスムーズにつながる流れをつくる必要がある。	青年ボランティア講座との合同研修の機会を設けることで、次のステップへの意識付けを行っていく。	研修の1つに青年ボランティア講座への参加を追加した。地元、地域で活躍している大人達と交流し話し合うことで、自分の未来像を考える機会をつくることができた。
13	青年グループ養成	青年ボランティア講座	一部見直し	しまだガンバ！、はばたけリーダー、青年ボランティア講座の交流を図り、はばたけリーダーから青年ボランティア講座への流れをつくることで、青少年リーダーの活動の場を設けるとともに、地域の青年団体活動を充実させる必要がある。	対象を高校生まで拡大し、途切れのない青少年リーダーの養成をしていく。加えて、しまだガンバ！及び、はばたけリーダーとの合同研修の機会を設けることで、より地域に根付いた活動としていく。	募集範囲を高校生以上に変更し、市内高校生全員にチラシを配布した。また、講座にはばたけリーダーとの交流も加え、地域の活動等の周知を行うことができた。
15	家庭教育支援者養成	ペアレントサポーター研修	一部見直し	ペアレントサポーターの役割を明確にし、活躍の場を確保することで、人材を有効に活用していくことが必要である。	来年度から役割分野（子育て広場担当・講座講師担当など）ごとに研修を行うことで専門性や資質の向上に努め、活動の場を広げていく。	平成27年度より専門分野に分かれて研修を行い、役割を明確にした。また家庭教育学級等を活用した親同士の学びの場を設定するなど、活動の場を広げた。
16	子育て交流支援	子育て広場	一部見直し	子育て支援センターなど市内には多くの集う場があるため、類似事業は検討していく必要がある。	子育て支援センターと役割が似ている点などを踏まえ、今後は少しずつ支援センターへ参加者をつなげていくよう進める。ただし、諸事情により地域の支援センターに行きづらいと感じている人もいると予想されるため、「ぐう・ちよき・ばあ」は、こうした利用者の受け皿として当面は運営していく。「おおるり」と「みんくる・いどばた 積み木広場」は、今年度で終了する。	子育て広場の開催等について検討を進める中で、0歳児の親が安心して集まる場所がほしいという要望が多数寄せられた。子育て広場3会場のうち2会場を平成28年度より「0歳児の赤ちゃんともママ」専用の場として開設し、情報交換や仲間作り、また子ども読書推進の場として開催することにした。